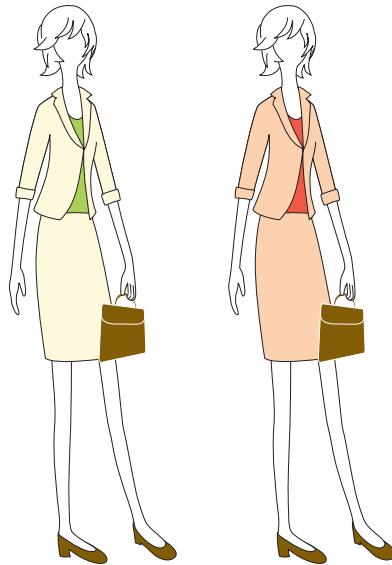


●スプリングの配色

◆色白のクリームの肌を引き立ててくれるのは黄みを感じさせるソフトな白です。スーツには鳥の子色を使ってみました。鳥の子色とは鶏の卵殻の色のこと。鎌倉時代から現れた日本の伝統色。ごく淡い黄色がかった白です。インナーに鮮やかなスプリング系の色をもつてくと春らしい明るい印象をソフトに包んでくれて上品な印象を与えてくれます。インナーには萌黄色を選んでみました。鮮やかな黄緑色系統の色で春に萌え出る草の芽をあらわす色です。春らしい明るく爽やかな印象になります。

◆スーツ色ピーチはやや灰色味を帯びた薄いオレンジ色ですがよく熟した桃の果肉の色に近い色を表しています。赤ちゃんの肌の色を連想させる優しい色です。とても華やかだ印象をもたらしてくれる色で、軽やかで明るいスプリングの印象を強めてくれます。インナーはスカレットでオレンジの濃淡でまとめてみました。さらに明るい印象のコーディネートになります。スカレット色は黄みがかった赤色。日本語名の緋色、茜染めの色です。「木と葉と果実」を意識してその色を合わせて組み合わせをすると簡単にコーディネートできます。

◆靴バッグはキャメル、ブラウンで控えめに。



四季のイメージファッション ～スーツバージョン～

●オータムの配色

◆落ち着いた印象のオータムの人の定番のベーシックカラーは黄みの強いウオームブラウンですがカーキは陸軍の軍装色で有名な色です。同系色でまとめるとシックな装いになりますが、ここではインナーにオイスターホワイトをもつてきて、よりフォーマル感のあるコーディネートをしてみました。オイスターホワイトは生牡蠣色ともいわれ牡蠣の身の色に似たやや黄色がかった白色です。

◆苔の色のような濃い黄緑色はモスグリーンというような表現でも表されますが苔に対する日本人の独特な美意識が生んだ色名だそうです。どんな色とも調和しやすいナチュラルなベーシックカラーです。スーツの色は苔色にして秋の自然の風景の中の色をインナーにもつてくとよく調和します。透明な黄褐色の鮎色のインナーをもつてくとお洒落で落ちついた印象になります。モスグリーンは対照的な色合いとも調和して大人っぽい雰囲気を作り出してくれます。

◆靴、バッグにはちょっとダークなブラウン。

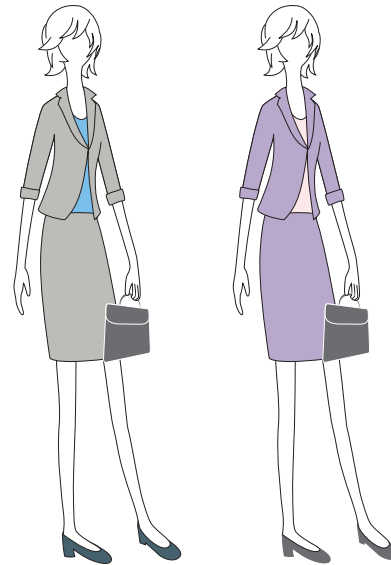


●サマーの配色

◆優しい雰囲気のパインクの肌をもつサマーの人にはグレー系の色がよく似合います。黒だと強すぎるし、茶系は肌をくすませてしまいます。真珠のような光沢のある灰色パールグレーをスーツにしてインナーに勿忘草色（サックスブルー）、くすんだ青をもつてくと肌が明るくすっきりとした印象をもたらしてくれます。グレーは大人しいピンク、ブルー、パープルなどサマー特有の色をきれいに引き立ててくれます。

◆古来から高貴な印象を与えるという青みがかった薄紫色のラベンダーをスーツにもつてくととても上品な印象を与えてくれます。強めの印象の色とあわせると引き締まるし、ピンクのインナーをもつてくとくく寂しい印象になりがちなサマーの人の顔色に紅がさしたように華やかな印象をあたえてくれます。春に咲く桜の花の薄いブルーがかったピンクの色をインナーにもつてきました。全体に爽やかな印象を与えてくれます。

◆靴、バッグにはグレー、ブルーグレー、黒。



●ウインターの配色

◆きりりとしてシャープな印象のウインターの人の着こなしはモノトーンでまとめるか他の濃い色をあわせてコントラストをつけた配色が一番似合います。黒と薄い色とのコーディネートは難しいのでなるべく避けて、ビビッドなカラーと組み合わせても個性的でよりシャープな印象を与えてくれます。黒と白との組み合わせが一番フォーマルなコーディネートです。モノトーンは素材感を楽しむと、よりお洒落が楽しめます。

◆ごく暗い紫みの青、ミッドナイトブルーを着こなすことができるのがウインターの人です。黒では印象が強すぎる時にソフトに装えます。黒に近い濃いブルーなのでベーシックカラーとしてよく使われます。薄い色とあわせると涼やかな印象になりますが鮮やかなピンクと組み合わせると明るく元気な印象になります。白いインナーと組み合わせるとリクルートスーツのようにきちんと爽やかなイメージに、グレーと合わせると大人っぽい小洒落た印象に、黒と合わせるとモダンな印象になります。

◆靴とバッグは濃紺か黒。

(文：山田真理子・イラスト：山田直子)

